

職員の皆さんへ

おはようございます。

早くも春3月、平成27年度最終の月を迎え、この一年間の事業あるいは取り組みの最終的な成果を出すとともに、4月からの新年度を迎えるための準備の時期となりました。そして大きな山場となる3月定例市議会が始まります。

今回提案する平成28年度予算案は市町村合併後、最大の規模となる272億円を計上し、平戸市ずっと住みたいまち創出条例の理念に基づき平戸市総合戦略をはじめ国や県の各種事業と連動しながら、人口減少をいかに食い止めるかという命題に正面から向き合っ諸課題解決に積極果敢に取り組むこととしております。

その一方で、行政改革推進計画や第二次財政健全化計画を踏まえながら、より効率的かつ効果的な事業推進を図るとともに、市民の皆様から常に信頼される行政運営に心がけなければなりません。

それは、あらゆる事業について、常に何を目的として捉え事業効果がどのようにもたらされるかを意識しながら取り組むことが大切だということに尽きるのです。

人間とは、ともすれば「目的」と「手段」を取り違え、「何のために」「誰のために」やっているのかに気付かないで無為に過ごしていることが多いものです。

そうした時にこそ事業の本質を再点検して、決して市民（利用者）目線を見失うことのないように、常に自らを律し軸足を確かなものにして堂々と職務に精励していただきたいと思えます。

さて先月の「平戸市まちづくり大会」において事例発表をされた度島中学校の生徒によるプレゼンテーションはとても素晴らしく感動的でした。通常のパワーポイントによる画像や動画のみならず寸劇を交えてユーモアや方言もふんだんに盛り込みながら次世代へつなげるまちづくりのあり方を力強く訴えてくれました。当日会場に来られた方々だけでももったいないほどで、機会があれば他校の生徒をはじめ各地区のまちづ

くり関係者にも鑑賞していただきたいと願うところです。

ご指導いただいた同校の森本校長先生をはじめとする先生方、そして梅元建治アドバイザーならびに度島まちづくり運営協議会の皆さんや地域支援員の森 健司さん、担当職員の頑張りのご支援に改めて感謝申し上げます。

以前にも申しましたが、一旦都会に出た若者がなぜ田舎に帰らないかという理由に「田舎のことをよく知らない」「田舎で頑張っている人知らない」「田舎に貢献できるまちづくりを学んだことがない」という三つの要因があるようです。

生まれ故郷のことを知らないはずがないと思いたいのですが、知っているのは表層的なことだけで、その地域資源がなぜそこに根付き、光り輝いているかを深く考えたことがないということなのです。いわゆる「知っているつもり」ということでしょうか。

また同級生の顔は思い浮かべることができても、実際に家族や親戚以外の地域の大人や青年層の方々との接点は乏しく、お世話になった学校の先生が転勤でいなくなれば地域に残っている人を知る機会は生まれません。

まして「まちづくり」というのは政治的活動そのものであるにもかかわらず、かつて高度経済成長期を生きた私たちにはそんな大事なことを学ぶ機会すら与えられず、「とにかく都会に行けば何とかなる」「大学に進学すれば何とかなる」「企業に就職すれば何とかなる」という扇動的なスローガンだけが、当時の若者に与えられたのであります。

それが今も改められることなくそのままの形で若い世代に押し付けられている結果として、都会のストレスに耐えながらも「今さら帰りたくても帰れない」という観念的な共通意識となっているのではないのでしょうか。

今や政府主導のもと、東京や福岡などの都市圏以外の全国の自治体が共通して取り組んでいる人口減少問題は、そのまま地域間競争という舞台の上でしのぎを削る「次代人材吸引（奪い合い）戦争」と化しており、いやおうなく平戸市もこの戦いを避けて通れないことになっています。

その舞台で勝ち残れるためには、単に特典とか財政支援などの「金銭的メリット」に依存するのではなく、本市に住んでおられる皆様が、地域に誇りと愛着をもち、住みなれた地域で「ずっと住み続けたい」と思えるまちの創出をはかるとともに、市外の方々に向かってその魅力呼びかけ続けることで「住んでみたい」と共感してもらえる魅力的なまちにしなければならないと思います。

前回のまちづくり大会におけるパネルディスカッションで私が訴えたことのひとつに、私たちが今こそ備えなければならない力は「まきこむ力」と「もうかる力」であると指摘しました。前者は連携を呼びかけ相乗効果や一体感を共有する原動力であり、後者は持続可能で自立できる基礎力になるものです。まちづくりの理念や実践は一過性のものであってはなりません。常に「選ばれ続ける平戸市」であるためには、この二つの「力」を車の両輪に位置づけ、やる気溢れる人材による発想力や行動力をエネルギーとして前に進み続ける仕組みが不可欠となります。

平戸市総合戦略はまさにその新しいまちづくりに不可欠な設計図であり、プログラムです。そしてその戦略は固定的である必要もなく、必要に応じて変幻自在に進化しプラスのスパイラルによって更なる広がりや強さを蓄えつづけなければなりません。「まきこむ力」と「もうかる力」はいささかも弱まることなく維持し続けなければならないのです。

「新年度の平戸市はどのような戦いを挑んでくるだろうか」と全国の自治体が固唾を呑んで見守っています。その前提となる定例市議会における各種議案をしっかりと説明しご理解いただき、議員各位の政治力をも巻き込んで、堂々と全国に、そして世界にアピールできる施策展開を進めてまいりましょう。

職員みなさんの引き続いての奮闘努力に期待します。

平成 28 年 3 月 1 日

平戸市長 黒田成彦